

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 和歌山県立串本古座高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒649-3503 (串本校舎)

和歌山県東牟婁郡串本町串本1522

〒649-4116 (古座校舎)

和歌山県東牟婁郡串本町中湊370

E-mail vice-principal@kushimoto-h.wakayama-c.ed.jp (串本校舎)

vice-principal@koza-h.wakayama-c.ed.jp (古座校舎)

Website http://www.kushimoto-h.wakayama-c.ed.jp/ (串本校舎)

http://www.koza-h.wakayama-c.ed.jp (古座校舎)

幼児児童生徒数

串本校舎 男子 155名 女子 123名 合計 278名

古座校舎 男子 28名 女子 41名 合計 69名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は「豊かな心と確かな学力を身につけ、個性の伸長をはかることにより、地域や社会の形成者として貢献できる人間を育成する」ことを教育目標（学校理念）として掲げている。この教育目標の中にある「地域や社会」を「生身の人間が生活を営み、持続可能な開発にかかわる問題を抱えた生活の場としての地域や社会」と見た上で、ESDは本校の教育目標を達成するための一つの有効な手段として捉え、ESDの実践をとおして、主体的に地方創生の役割を担い、地域に貢献できる人材を育成することを目標とした。

具体的には、全校生徒による総合的な学習の時間と串本校舎CGS部（地域包括支援部）を中心に、下記の活動（学習）を行った。

① 主に総合的な学習の時間に取り組んだもの

(1) 串本校舎

- ・ 1年キャリア教育（生き方・あり方）

インターンシップ等により職業観・勤労観の育成とともに自己の生き方・あり方を考察し、社会貢献について考える。

- ・ 2年キャリア教育（生き方・あり方）

将来の進路の方向を決め、進路に関する情報を集め、進路決定に必要な力を身につける。

- ・ 3年地域防災学習

防災の観点から地域について学ぶとともに、学校から高台への避難路の整備作業に取り組む。

- ・ 全学年でとりくんだもの

1 人権学習、2 防災学習と講演会、3 地域清掃活動

(2) 古座校舎

- ・ 2年世界遺産体験学習とキャリア教育（生き方・あり方）

自分たちの住む地域の自然・文化・産業と日本の他の地域（研修先の地域）や海外とのつながりについてグループごと研究し、各自の生き方・あり方を模索する。

- ・ 3年世界遺産体験学習とキャリア教育（生き方・あり方）

自分たちの住む地域の自然・文化・産業と日本の他の地域（進路先等）や海外とのつながりについて個別に研究し、自己の将来に向けて必要な力を身につける。

- ・ 全学年で取り組んだもの

1 ESD 体験学習、2 人権学習・情報モラル学習、3 地域と合同の防災学習

② 串本校舎CGS部（地域包括支援部）の活動

串本・古座川町役場や地域の団体と協力し、以下の活動を行った。

1 マグロ料理の新メニュー考案、2 定置網での漁業体験と干物づくり、3 古座川ゆずの里との共同メニュー考案、4 なんとん密姫栽培と商品開発、5 トルコとの交流、6 ボランティア活動、7 稲村邸の学習と整備、8 防災への取り組み



① 串本校舎が行ったJRと合同の避難訓練



② 串本校舎CGS部の活動（トルコとの交流）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ユネスコスクールESD優良実践事例集（文部科学省）以下、文科省のサイトにあるものは特に参考としている。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では今年度の1学年から教育課程を変更し、2学年（来年度）から本格的に、新しい学校設定科目を展開する。昨年度の教育課程編成時には、各教科やプロジェクト委員会で話し合った。今年度はそれに加え、チェック事項にもある、課題解決型の学習やアクティブラーニングの手法を取り入れた授業を展開し、教科横断的な学習を行うための具体的な指導内容を、話し合った。あわせて各教科に於いて、地域教材の開発も進めた。

来年度の新しい科目は、体験や実習を多く取り入れたり、通年にわたっての特別外部講師の招聘など、地域の協力を得ながら展開していくことになる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

実習先や特別外部講師外部との調整は、町当局から派遣されている地域コーディネーターが仲介をしている。また、機に応じた適切な指導助言も得ている。校内には、従来の職員会議や運営委員会とは別に、プロジェクト委員会を設置している。必要に応じてプロジェクトチームを立ち上げるなどして、機動力を活かした臨機応変の対応を行う体制を構築している。

- ④ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

先述の串本校舎CGS部（地域包括支援部）の活動は今年度からはじまったものであるが、概ね外部からは好評であった。地域新聞では、その活動を何度も取り上げてもらっており、生徒たちにも励みになっている。地域からの新たな提案も出されており、来年度以後も積極的に取り組んでいきたいと考えている。

その他の活動も、今まで伝統的に積み上げられてきたものであり、今後も必要な修正を加えながら、展開していきたいと考えている。

- ④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

ホームページやフェイスブックを使用している。ESDの推進拠点としての発信はもちろんのこと、学校のPRとしても、様々な活動をタイムリーな形で、積極的に発信している。特に今年度はフェイスブックの読者が劇的に増え、活動成果の発信という意味では、うまく機能していると思う。④で述べた新たな提案も、フェイスブックを見てのものが多かったように思う。

あわせて、従前から発行しているマンスリータイムズも地方新聞に掲載し、情報発信を行っている。

- ⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

串本町役場、古座川町役場、串本町地域おこし協力隊、和歌山大学、トルコ文化協会、ジオパークガイドの会、和歌山県青少年育成協会など

- ⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成には至っていない。今後の課題である。

- ⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

特にCGSの活動によって、地域との双方向のつながりが形成されつつあるように感じる。県立高校と町との関係は今まで希薄であったが、多くの場面で、お互いに協力して打ち合わせる場面が見られた。活動場面でも、総じて生徒たちは生き生きと活動している。今まで経験できなかったことを経験できることが、生徒にも教師にも大きな刺激になっており、学校の活性化にも大きく資しているように思う。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

以下の2点を中心に進めていきたい。

1 CGSの活動の更なる推進

地域の特産物（ゆず、にんにく、海産物など）の商品化や、ジオや産業遺産の視点からの観光資源の発掘などを行い、地域貢献を進めていく。生徒たちが地域に出て行くことで、地域の様々な問題や課題を自分のものとして捉え、主体的に解決する力を育てていきたい。

2 防災への取り組みの推進

今年度は、防災サミットや鐵学へ参加することで、生徒の意識を高めることができた。今年度も引き続き、様々な取り組みを進めていきたい。